

地域おこし協力隊の現状と課題

～H29年度 JOIN地域おこし協力隊アンケート集計結果の概要



日本政策投資銀行グループ

株式会社 価値総合研究所

- 対象：全国の地域おこし協力隊員
- 方法：総務省から都道府県→市町村経由で隊員に電子ファイルを配布
回収は隊員からJOINアンケート返信アドレスに直接送信
- 調査時期：平成29年11月16日～12月8日

● 回収数：1,811名

＜参考＞平成24年度調査 回収数：278名
平成25年度調査 回収数：412名
平成26年度調査 回収数：600名
平成27年度調査 回収数：919名
平成28年度調査 回収数：1,380名

※回収数は速報値であり、今後変更となる可能性があります

● 調査項目

➢ 基本属性

- ・性別、年齢、現在の任地、前住所、委嘱時期 等

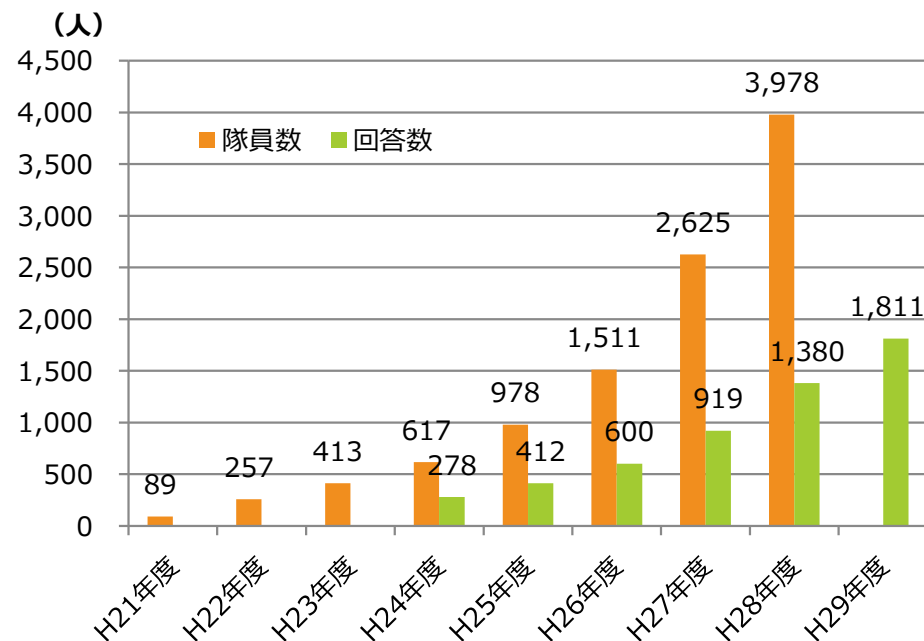
➢ 応募の理由、情報入手手段

➢ 活動状況（活動内容、活動費、兼業・副業 等）

➢ 活動の評価（期待度、満足度）

➢ 任期終了後の意向 等

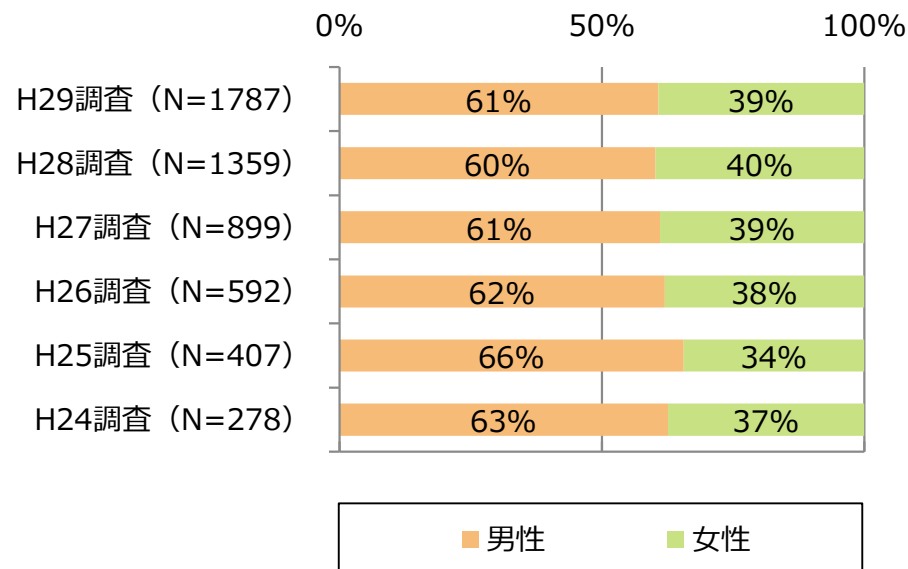
○ 隊員数・回答数の推移



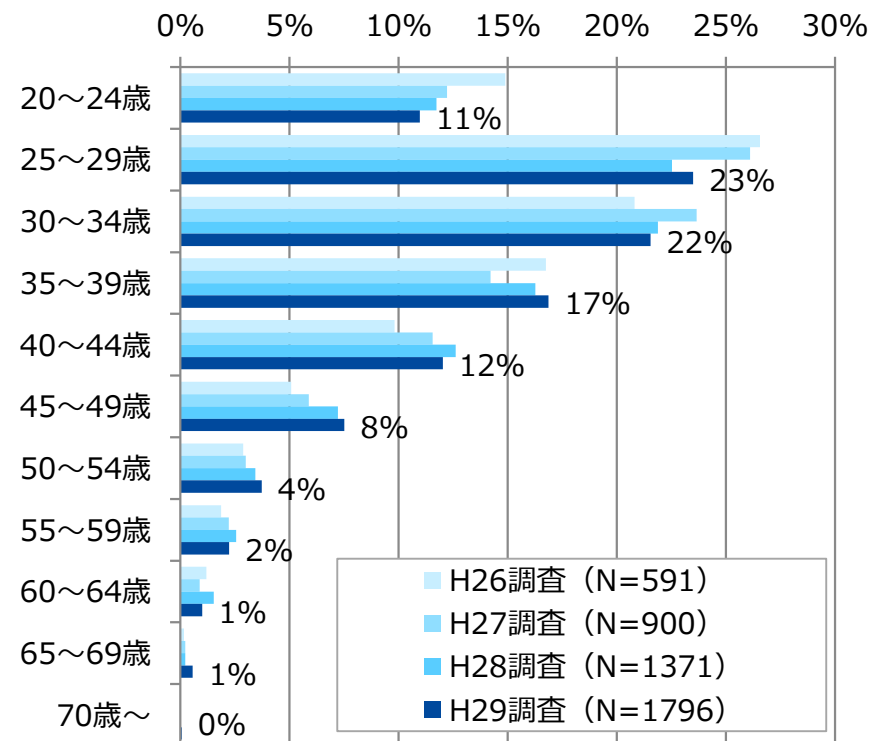
※隊員数は総務省（各年度特交ベース）による

1. 回答者の属性① (性別、年齢)

○性別



○年齢



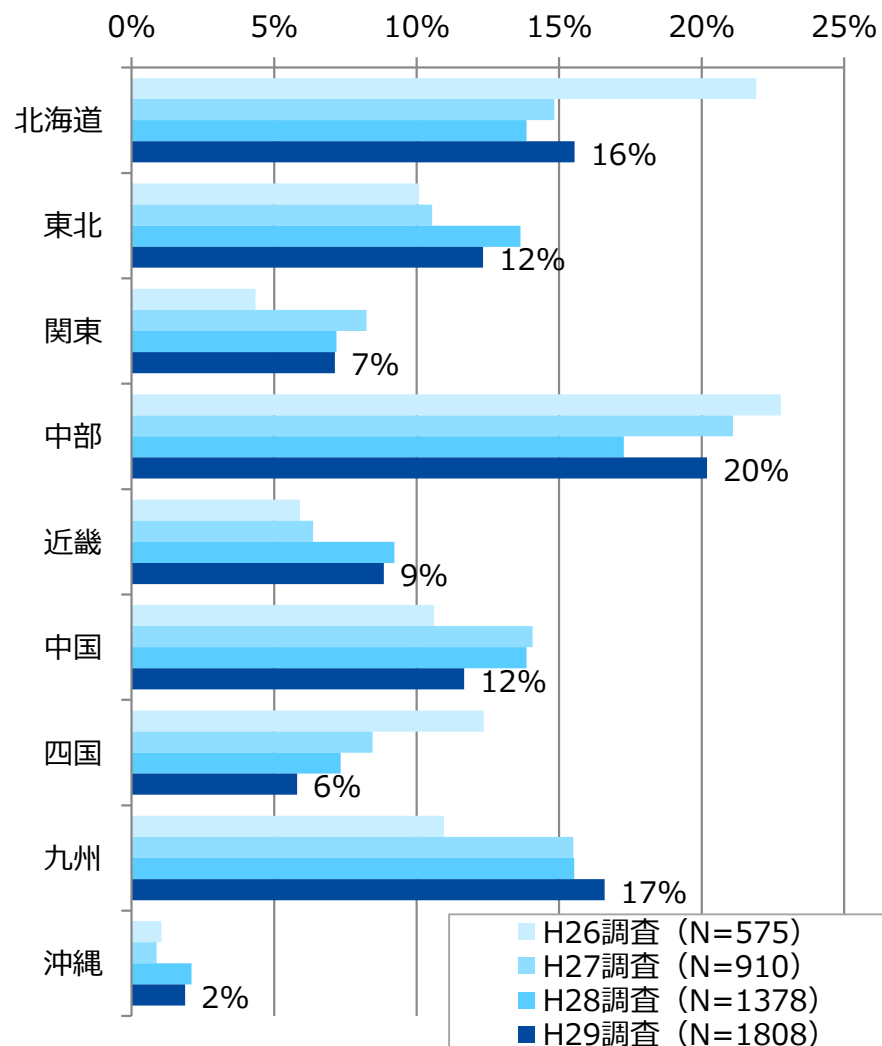
・年齢は、20代の割合が低下し、40代以降の割合が上昇している

<回答者平均年齢>

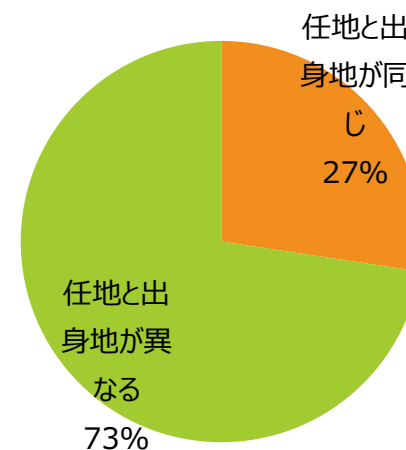
回答者平均年齢 (H29)	34.7 歳
H28調査	34.7 歳
H27調査	33.7 歳
H26調査	33.2 歳

1. 回答者の属性② (任地、着任時期)

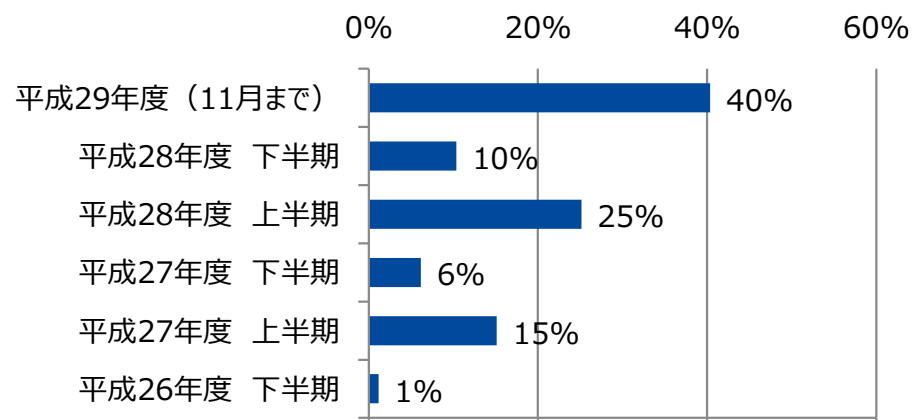
○任地（居住地）



○任地と出身地との関係

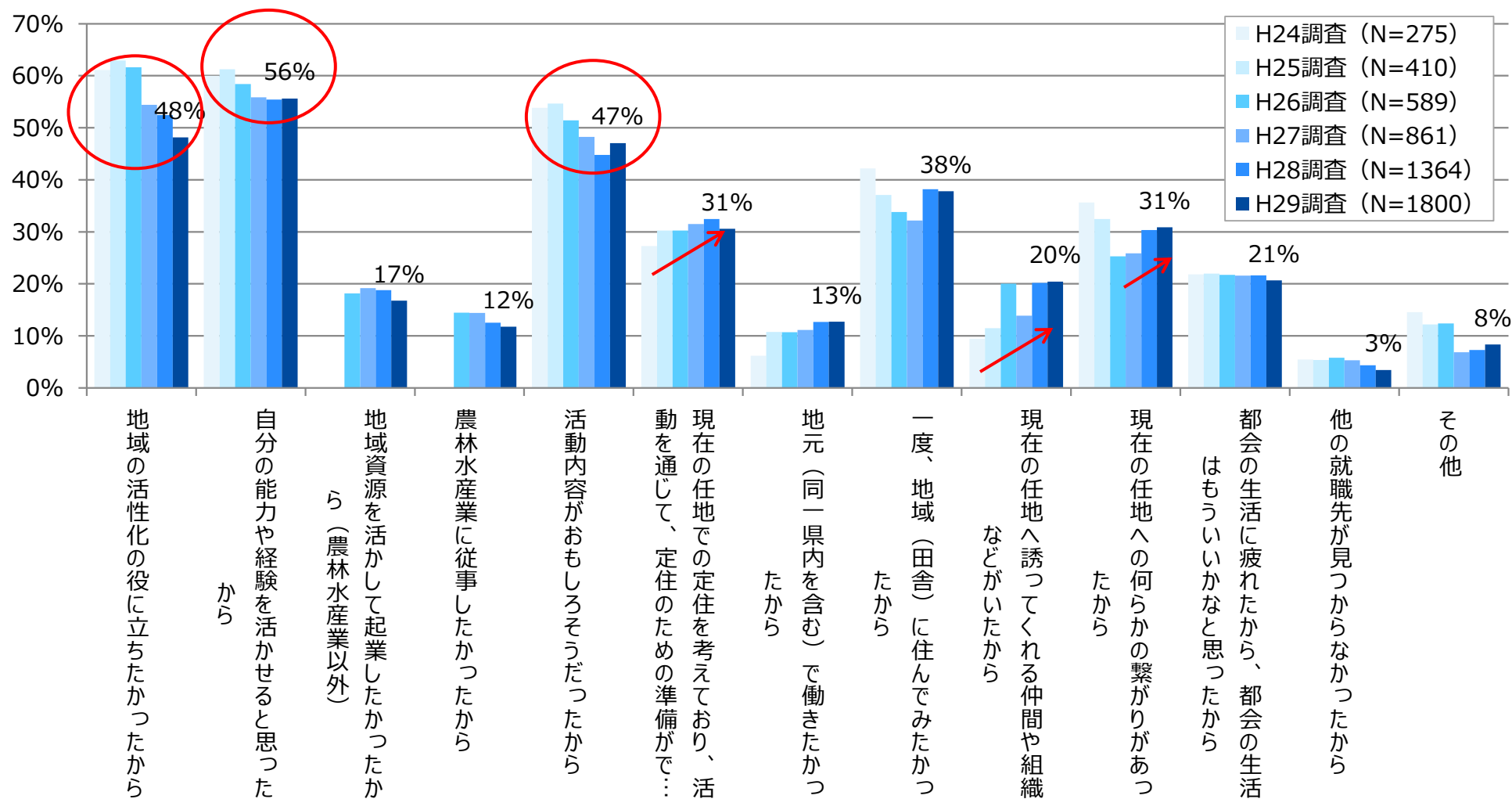


○着任時期



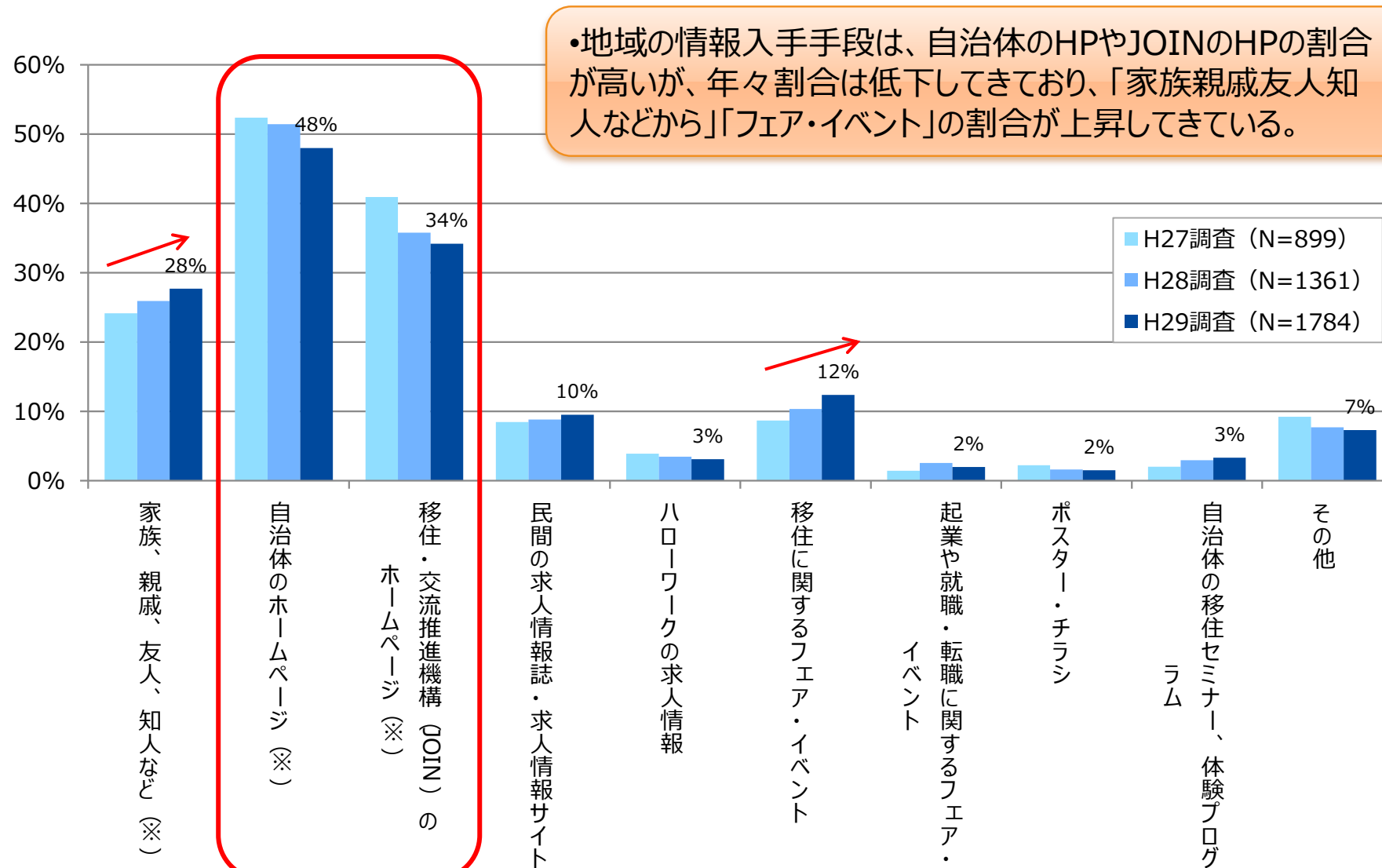
2. 地域おこし協力隊に応募した理由

- ・「自分の能力や経験を活かせる」「地域の活性化の役に立ちたい」「活動内容がおもしろそう」といった理由が多いが、これらの割合は減少傾向となっている。
- ・近年は「定住のための準備」「誘ってくれる仲間がいた」といった理由の割合が上昇してきている。



3. 地域おこし協力隊に関する情報の入手手段

○現在活動している地域の募集情報や地域情報などの入手先

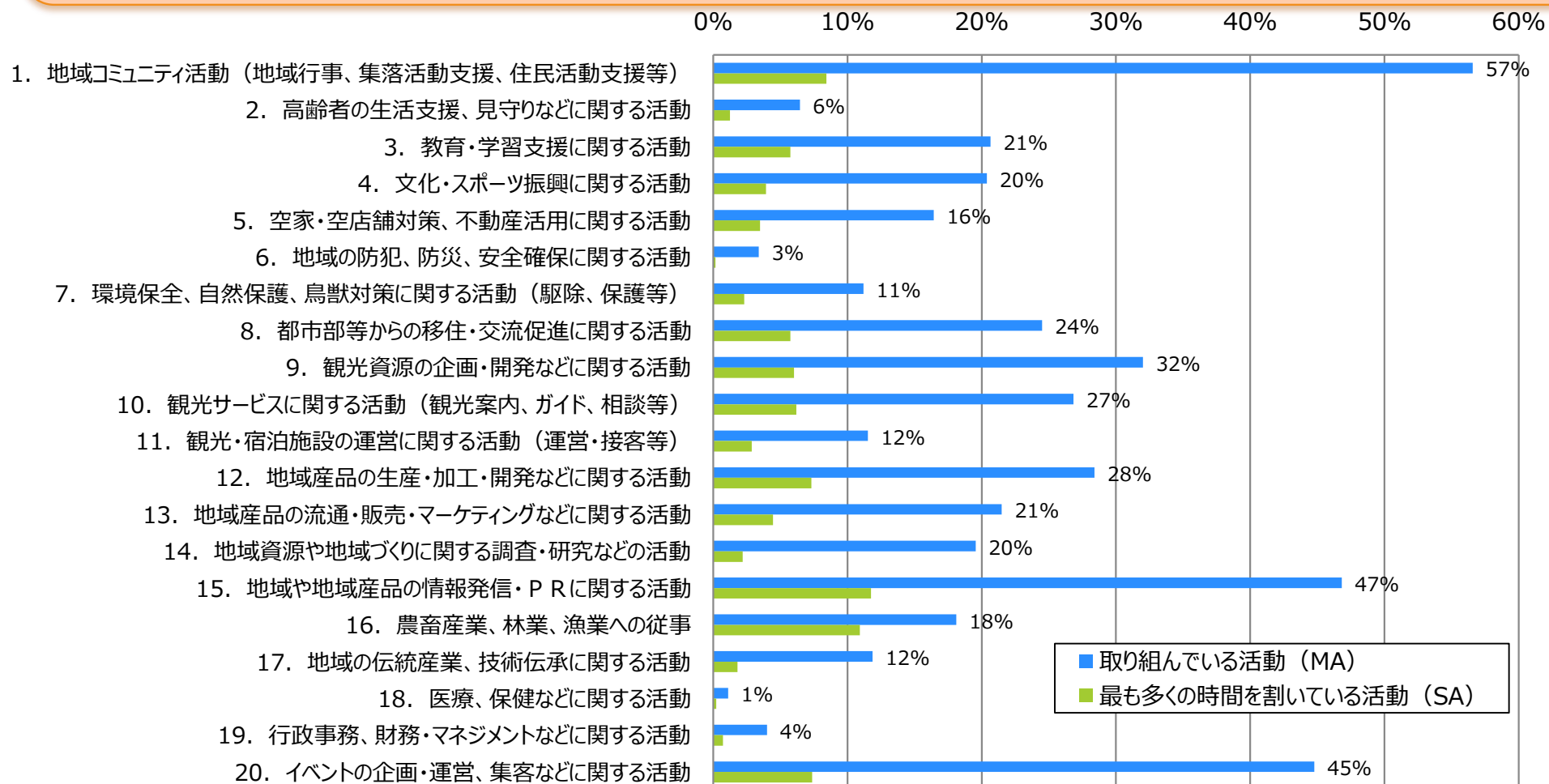


※ブログ、SNS (FACEBOOK、LINE等) も含む

4. 地域おこし協力隊としての活動状況①【取組んでいる活動】

○現在取組んでいる活動

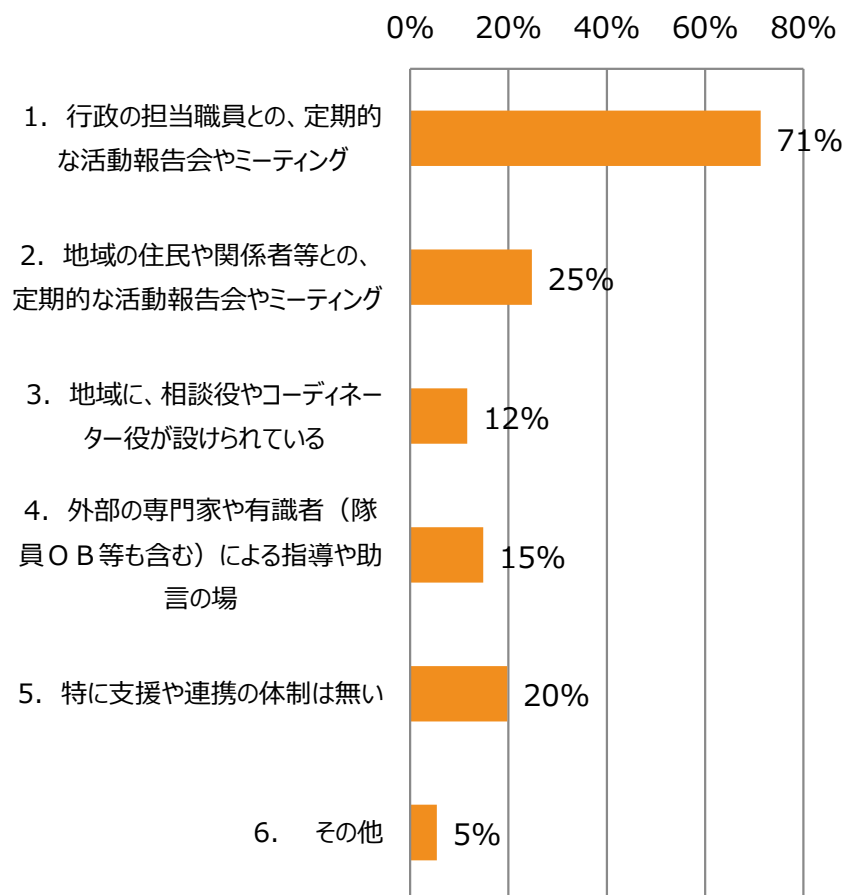
- ・取組んでいる活動としては、「地域コミュニティ活動」が57%で最も高く、次いで「情報発信・PR」「イベント」の順となっているが、最も多くの時間を割いている活動としては、「情報発信・PR」が最も高い。
- ・「農畜産業、林業、漁業」は、取組んでいる活動としての割合は低いが、最も多くの時間を割いている活動としての割合は高く、専業・主業として取り組む隊員が高いことがうかがえる。



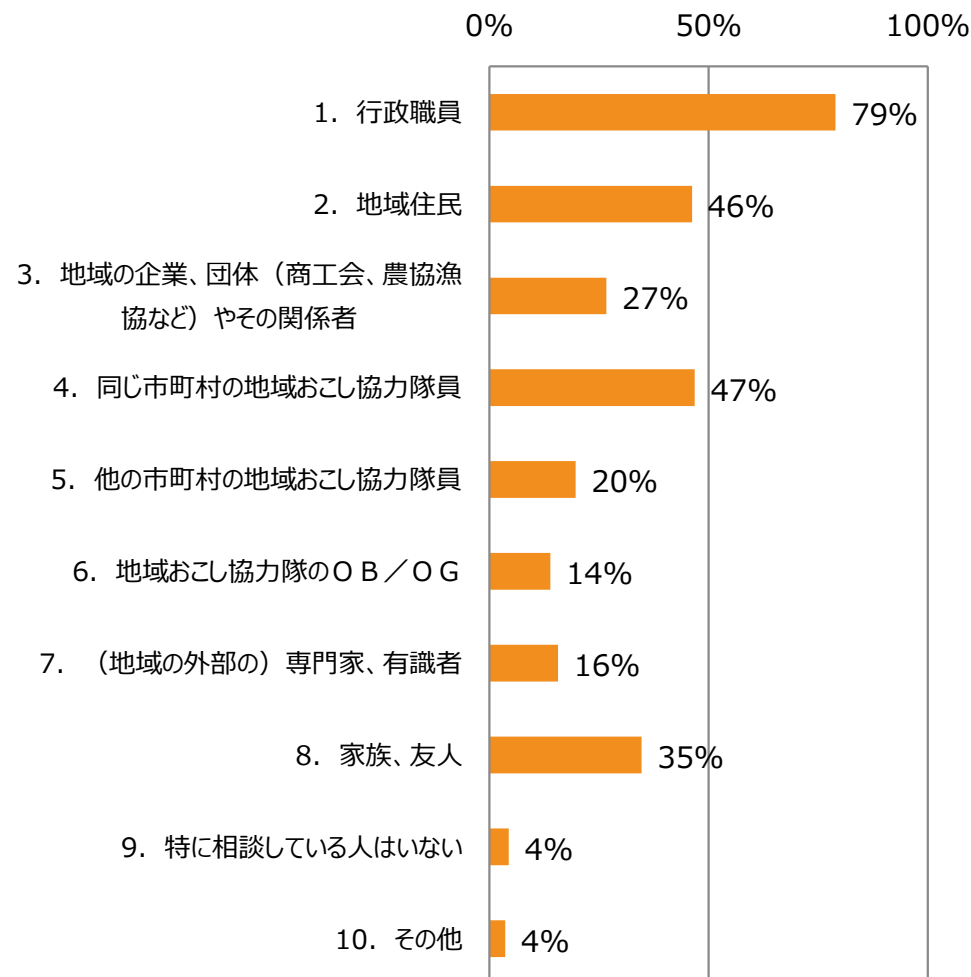
4. 地域おこし協力隊としての活動状況②【支援や連携の体制】

- 行政職員とのミーティングは7割となっているが、「支援や連携の体制が無い」も2割見られる。
- 相談相手は、行政職員のほか、地域住民、隊員同士の割合も高い。

○活動における支援や連携の体制（N=1787）



○日々の活動の相談相手（N=1806）

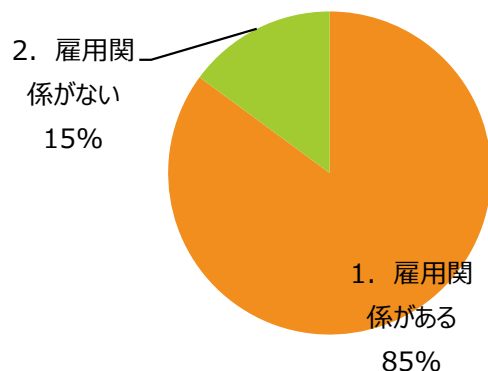


5. 地域おこし協力隊としての活動状況③【雇用形態・活動費】

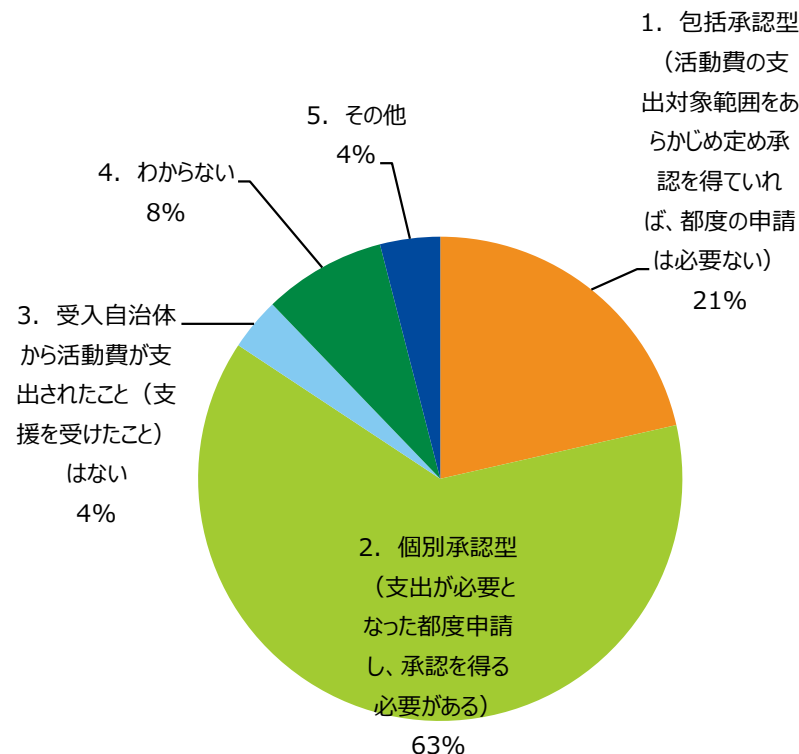
- 「自治体との雇用契約あり」が8割超
- 雇用関係なし（個人事業主）は全体の約1割

- 活動費の支出は「個別承認型」が6割

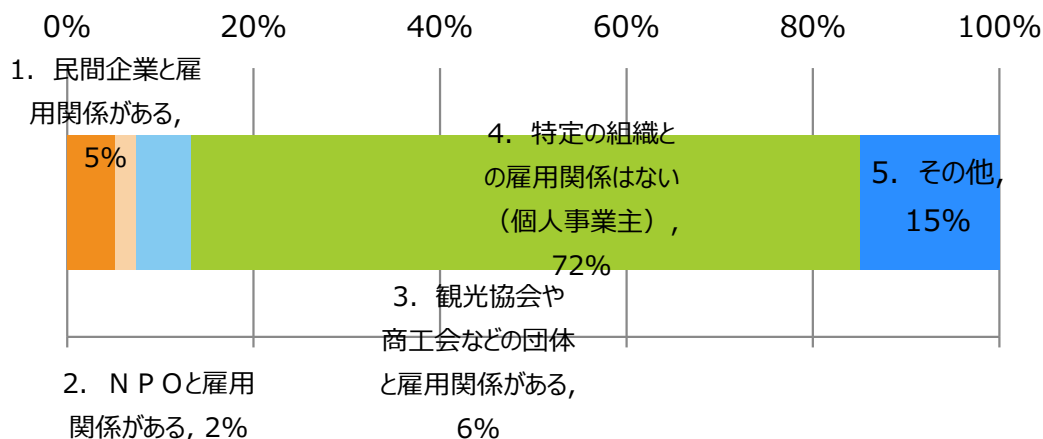
○自治体との雇用関係（N=1800）



○活動費支出時の手続き（N=1796）



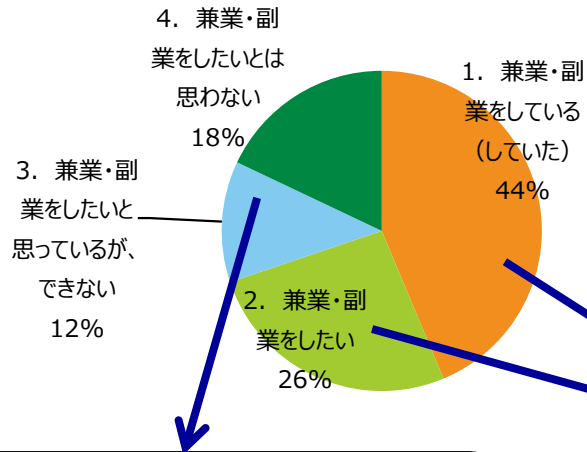
○自治体以外との雇用関係（N=255）



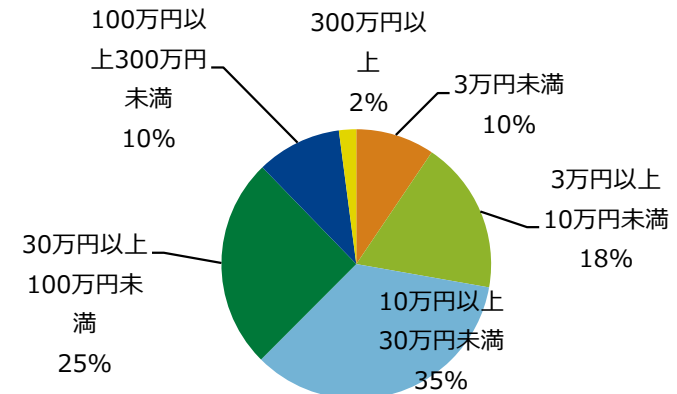
5. 地域おこし協力隊としての活動状況④【兼業・副業】

・兼業・副業経験がある隊員は4割

○兼業・副業の有無 (N=1799)

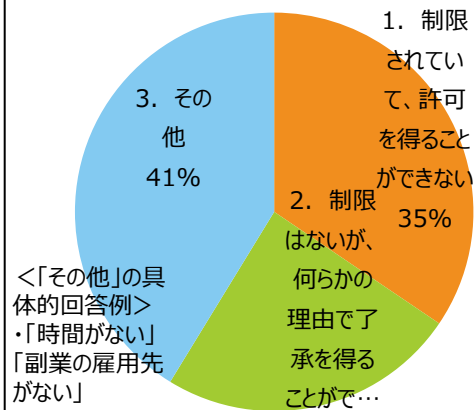


○(兼業・副業による副収入がある場合)
昨年度の収入額 (N=677)

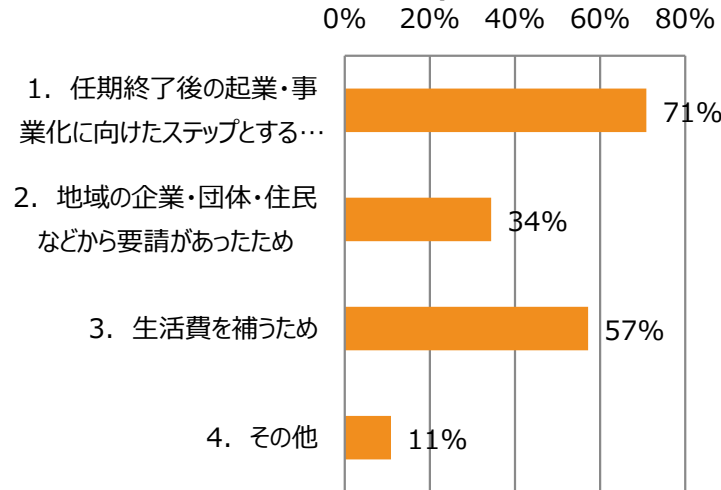


平均収入額(1円以上の収入があった隊員) : 41 万円

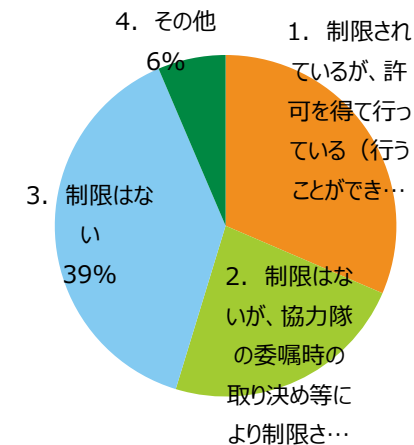
○兼業・副業ができない理由 (N=206)



○兼業・副業をする理由 (N=1240)



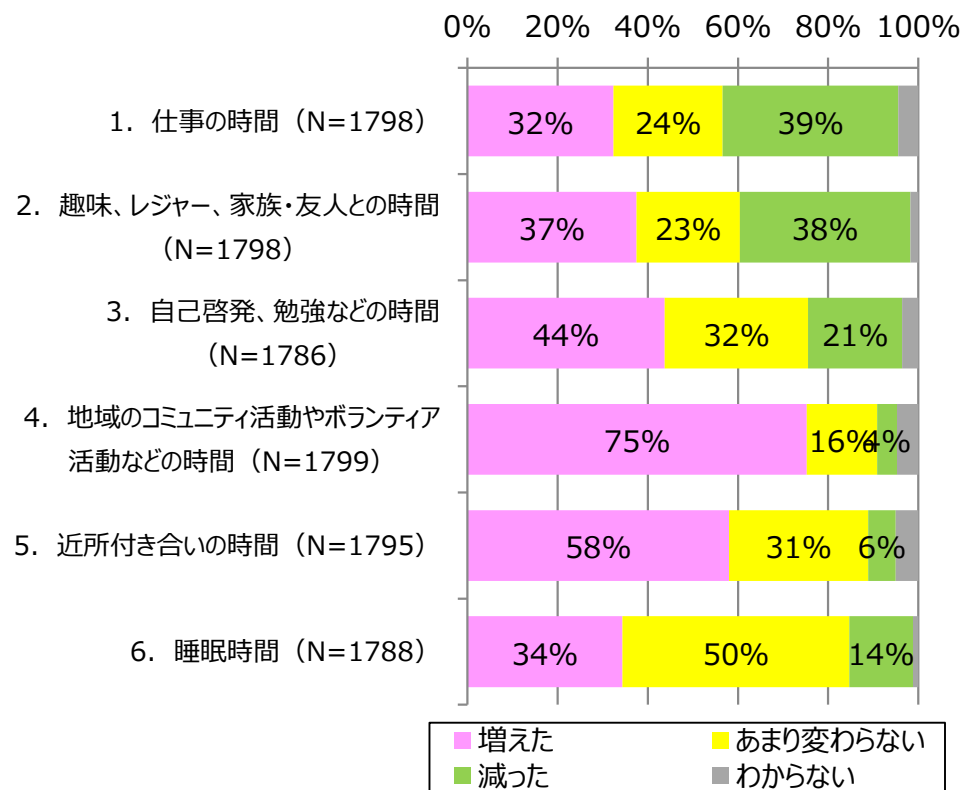
○兼業・副業をする場合の制限 (N=1230)



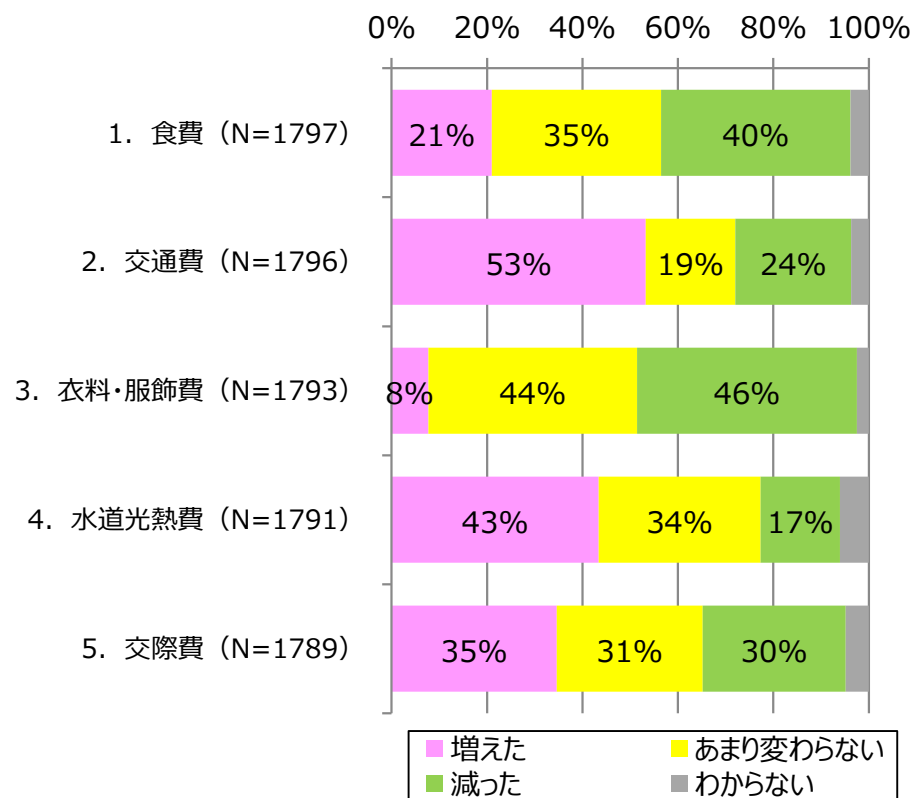
5. 地域おこし協力隊としての活動状況⑤【生活の変化】

【時 間】・地域のコミュニティ活動やボランティア活動、近所づきあいの時間は半数以上が「増えた」と回答
・仕事の時間、趣味・レジャー、家族・友人との時間は「減った」が多い
【生活費】・交通費は半数以上が「増えた」と回答
・食費、衣料服飾費は「減った」が多い

○赴任前と比較しての時間の使い方の変化



○赴任前と比較しての生活費の変化



6. 地域おこし協力隊としての活動への評価（期待度・満足度）

期待度＞満足度（差が0.5ポイント以上）

期待度＜満足度（差が0.5ポイント以上）

※各設問の回答を右記
により点数化し、平均点
を算出

①事前の「期待度」

5:とても期待していた
4:やや期待していた
3:どちらともいえない
2:あまり期待していなかった
1:全く期待していなかった

高い
低い

②現在の「満足度」

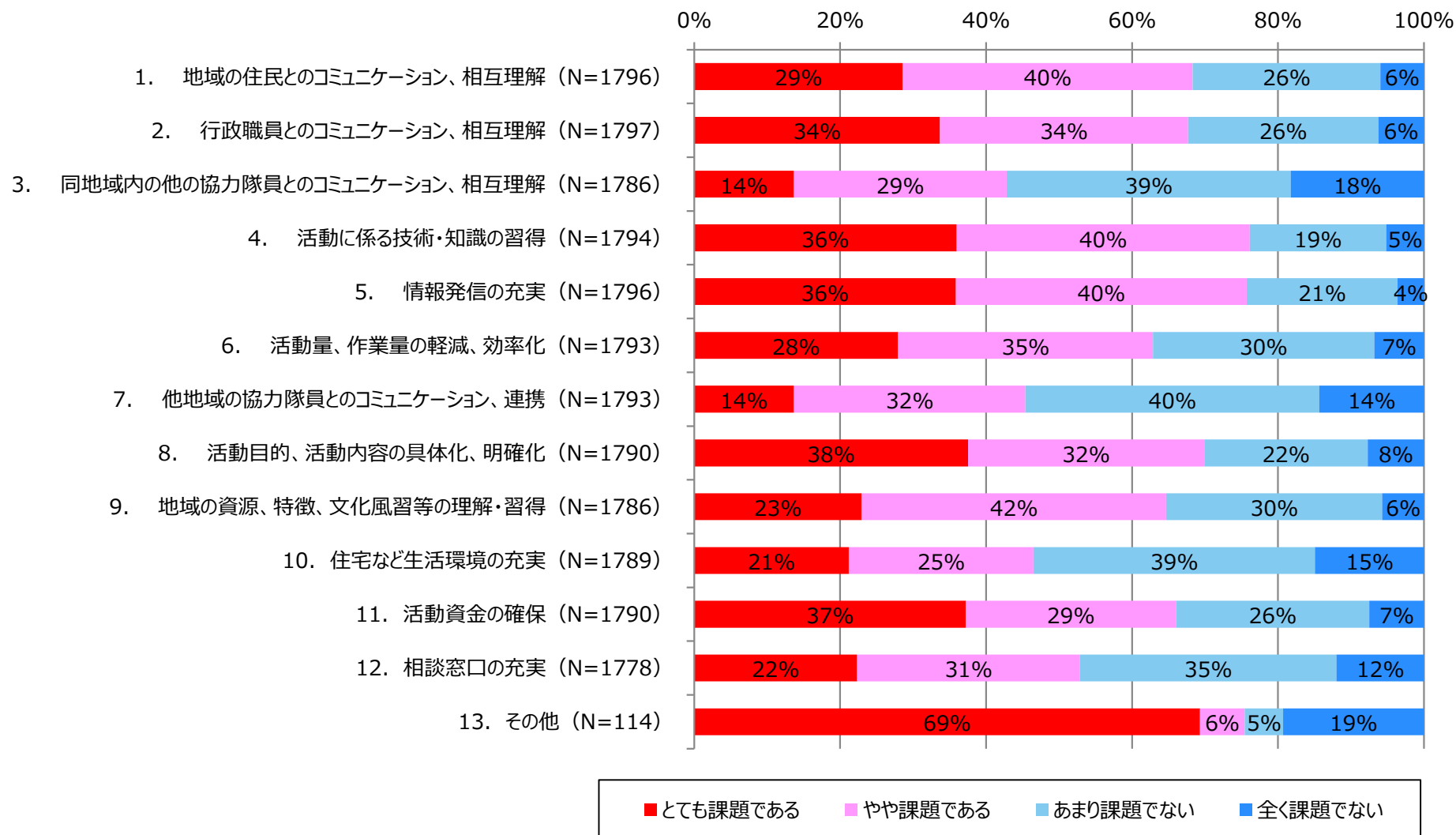
5:とても満足
4:やや満足
3:どちらともいえない
2:やや不満
1:とても不満

高い
低い

項目（期待や満足の視点）	平成24年調査 (N=278)		平成25年調査 (N=412)		平成26年調査 (N=600)		平成27年調査 (N=891)		平成28年調査 (N=1360)		平成29年調査 (N=1797)	
	期待度	満足度	期待度	満足度	期待度	満足度	期待度	満足度	期待度	満足度	期待度	満足度
（１）活動を通じて、自己実現を感じられること	3.9	3.4	4.1	3.3	4.0	3.3	4.0	3.2	4.0	3.3	4.0	3.4
（２）活動そのものがおもしろいこと	3.9	3.7	4.1	3.7	4.1	3.7	4.1	3.6	4.1	3.6	4.1	3.7
（３）地域（住民や自治体など）から自分の活動や働きが認められ、評価されること	3.1	3.2	3.1	3.4	3.1	3.3	3.1	3.3	3.2	3.3	3.1	3.3
（４）地域の広報誌やマス媒体などで取り上げられたり、注目されたりすること	2.2	3.3	2.3	3.4	2.2	3.3	2.3	3.3	2.3	3.3	2.2	3.3
（５）地域（住民や自治体など）から受け入れられ、良好な人間関係を築けること	3.7	3.9	3.7	3.9	3.7	3.8	3.6	3.7	3.7	3.8	3.5	3.8
（６）地域に心を開ける友達がいること、できること	3.1	3.5	3.1	3.5	3.1	3.4	3.1	3.4	3.1	3.4	3.1	3.4
（７）報酬や活動費などにより、生活に困らないこと	2.9	3.1	3.0	3.1	2.9	3.1	2.9	3.0	2.9	3.0	2.9	3.0
（８）不満や不便を感じない住居に住めること	2.9	3.5	2.8	3.5	2.8	3.5	2.9	3.5	3.0	3.5	2.9	3.4
（９）地域（住民、自治体、NPO法人など）が活動をバックアップしてくれること	3.3	3.2	3.4	3.3	3.4	3.3	3.4	3.1	3.4	3.2	3.3	3.2
（１０）活動を通じて、任期終了後の生活がイメージできるようになること	3.6	3.0	3.6	3.1	3.6	3.0	3.6	3.0	3.7	3.0	3.6	3.0
総合評価		3.4		3.4		3.3		3.3		3.3		3.5

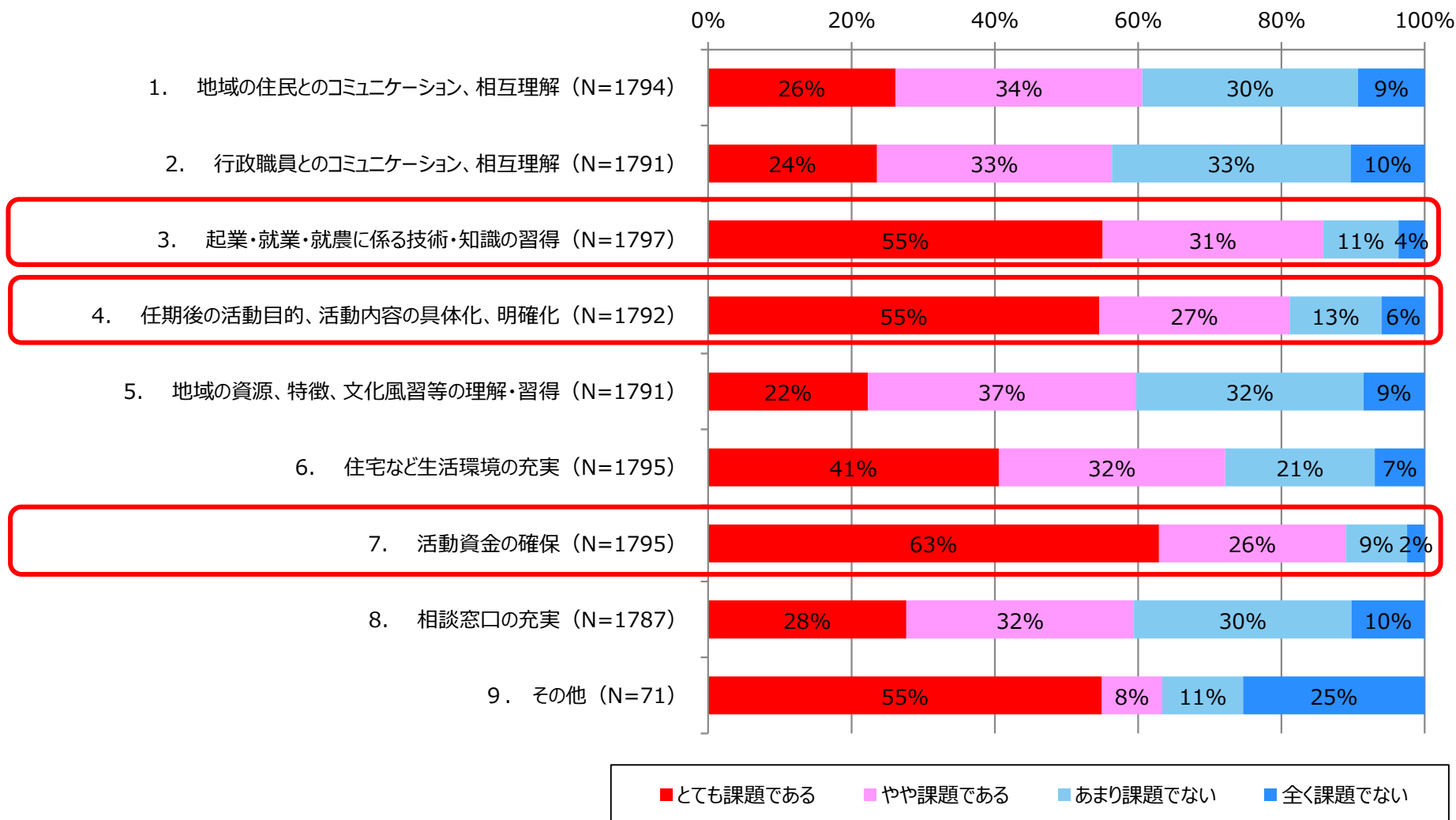
7. 今後の活動に向けての課題

• 今後の活動に向けての課題としては、ほとんどの項目で5割以上の隊員が課題（とても課題＋やや課題）としているが、特に「技術・知識」「情報発信」「活動目的、内容の具体化明確化」を挙げる隊員が多い。



8. 今後の定住に向けての課題

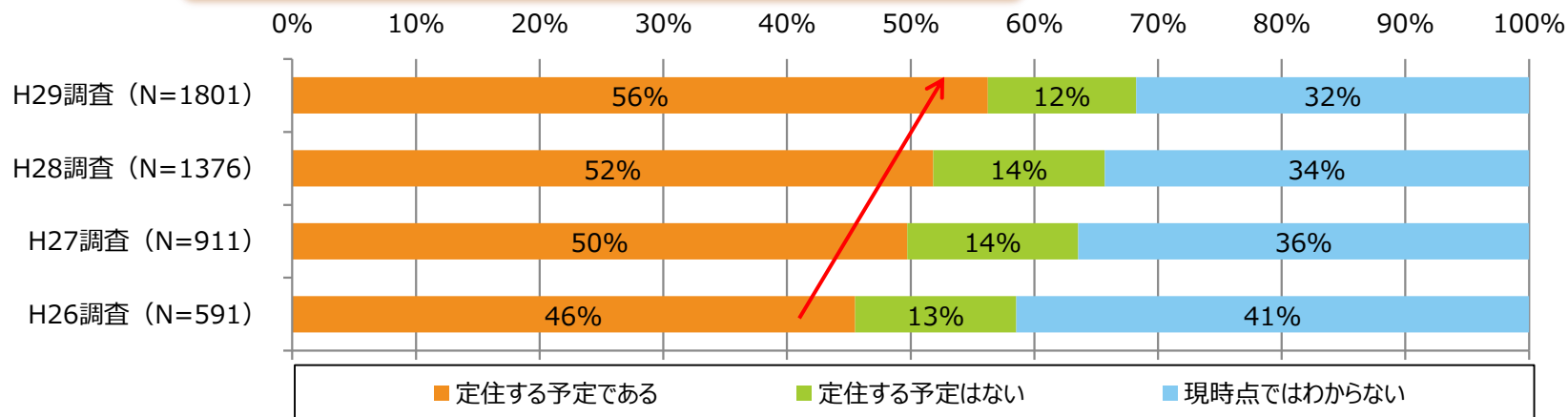
•定住に向けての課題としては、「技術・知識」「活動目的、内容の具体化明確化」「活動資金の確保」が8割を超えており特に多い。



9. 任期終了後の意向

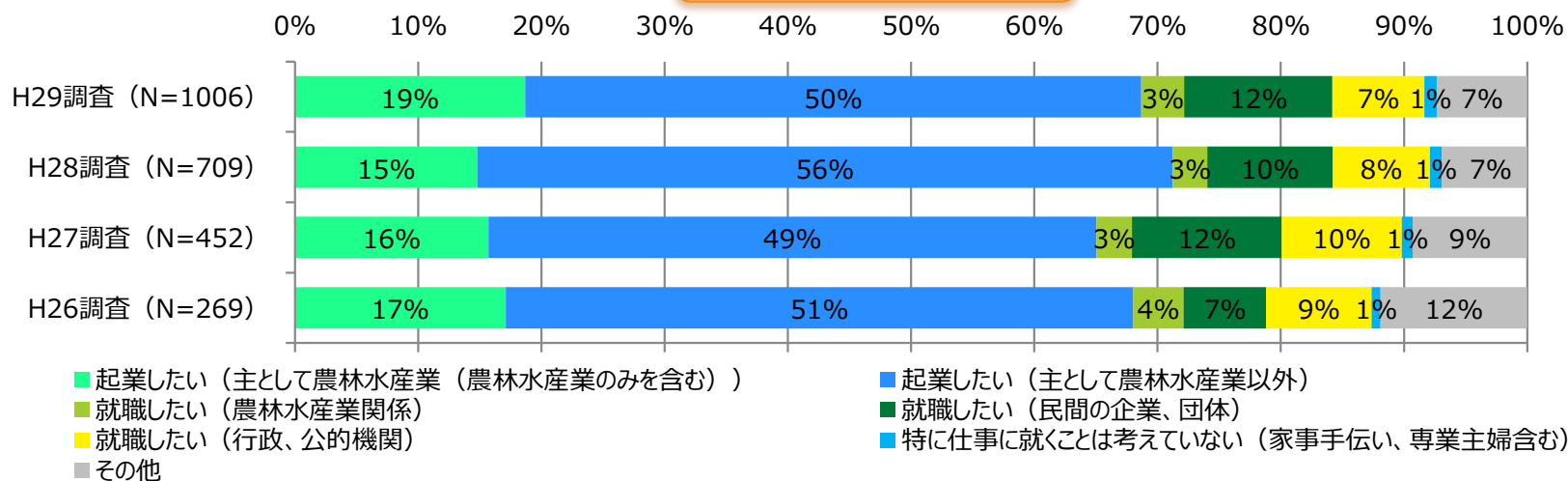
○定住意向

・定住予定の割合は約6割で年々増加傾向



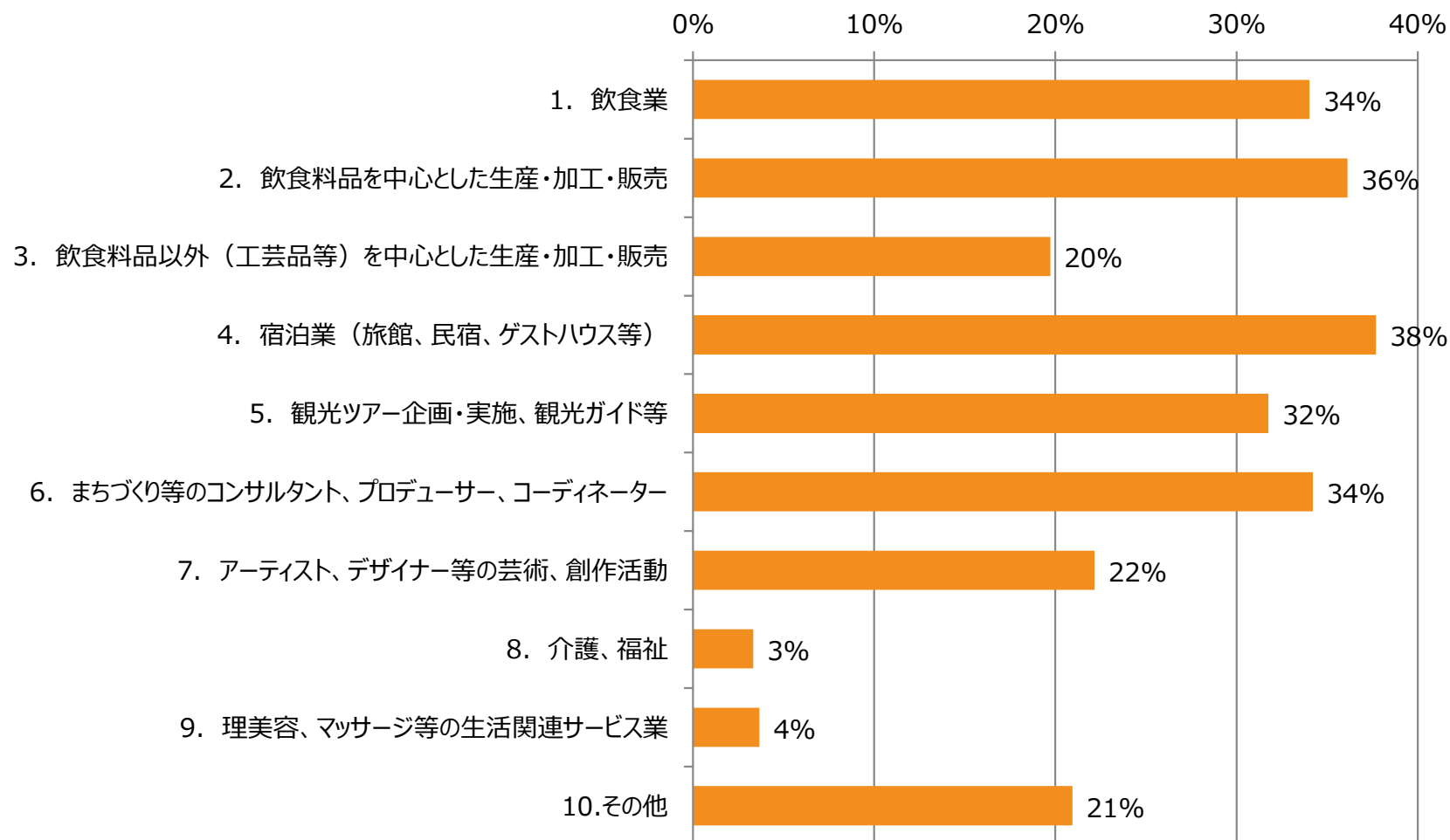
○（定住予定の場合の）仕事の意向

・起業意向は約7割



10. 起業意向②

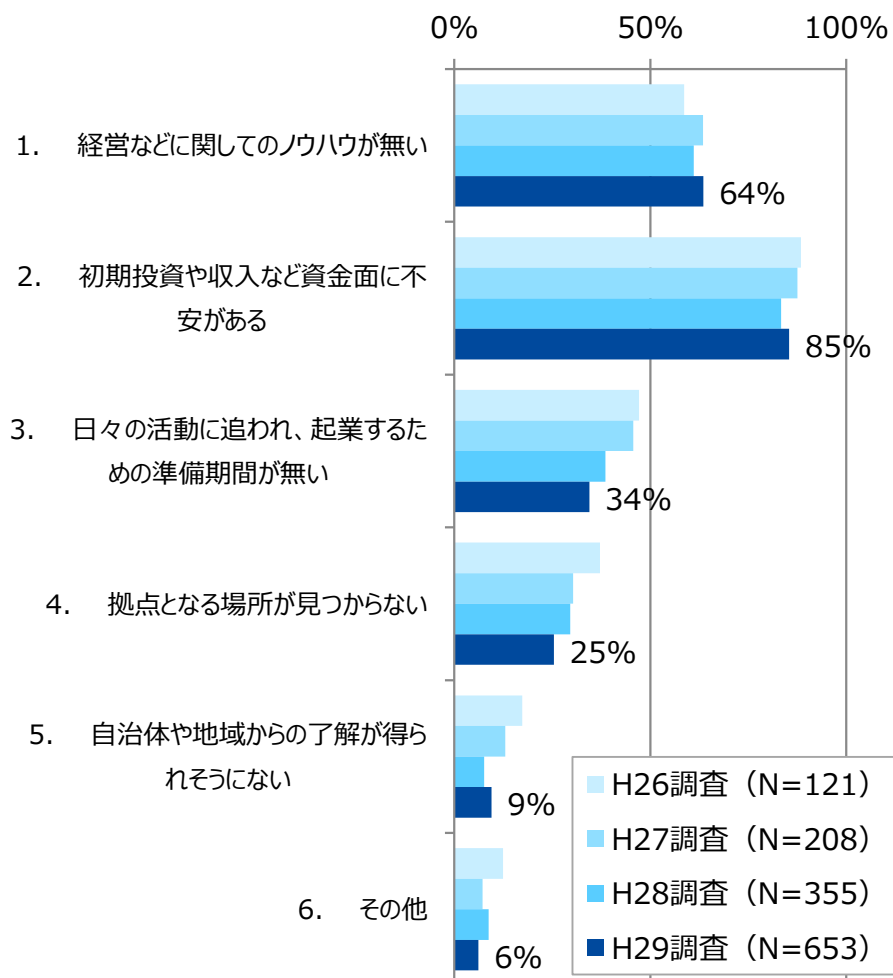
○（起業したい場合の）事業分野（SA・N = 573）



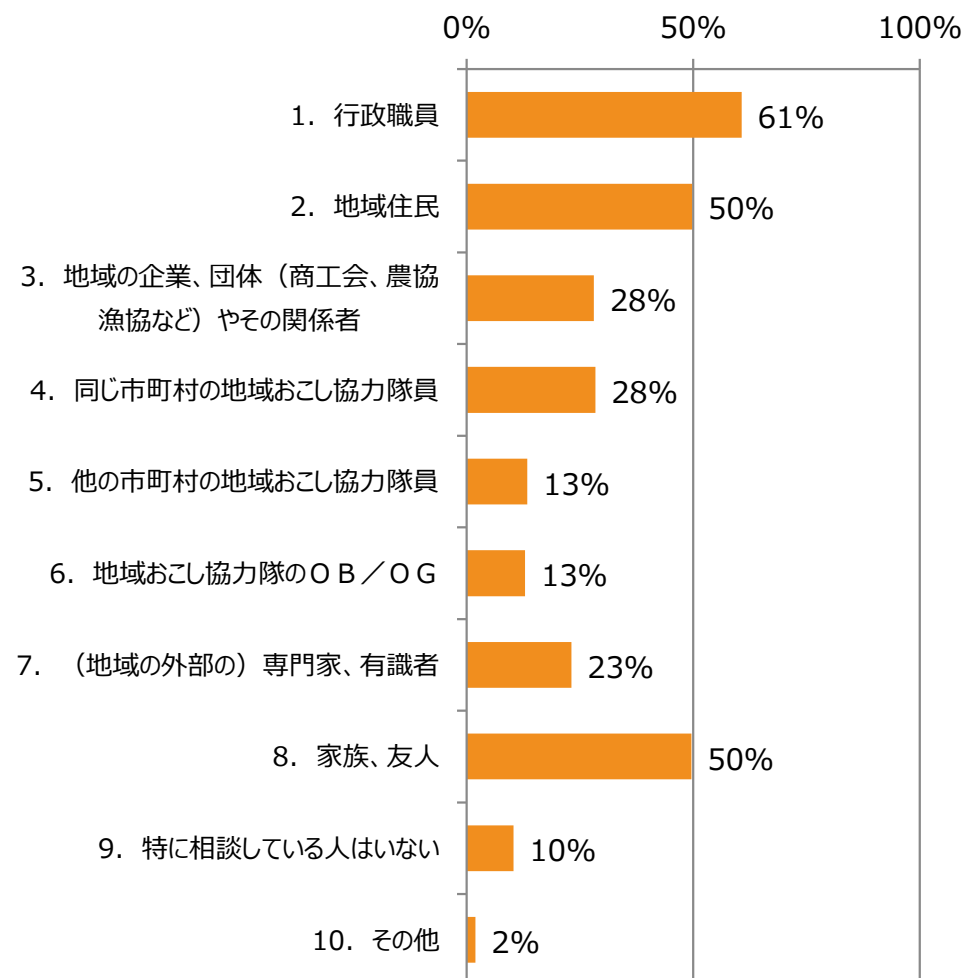
11. 起業にあたっての課題

・8割超が、「資金面に不安」で、相談者は「行政職員」が6割

○（起業したい場合の）課題・悩み

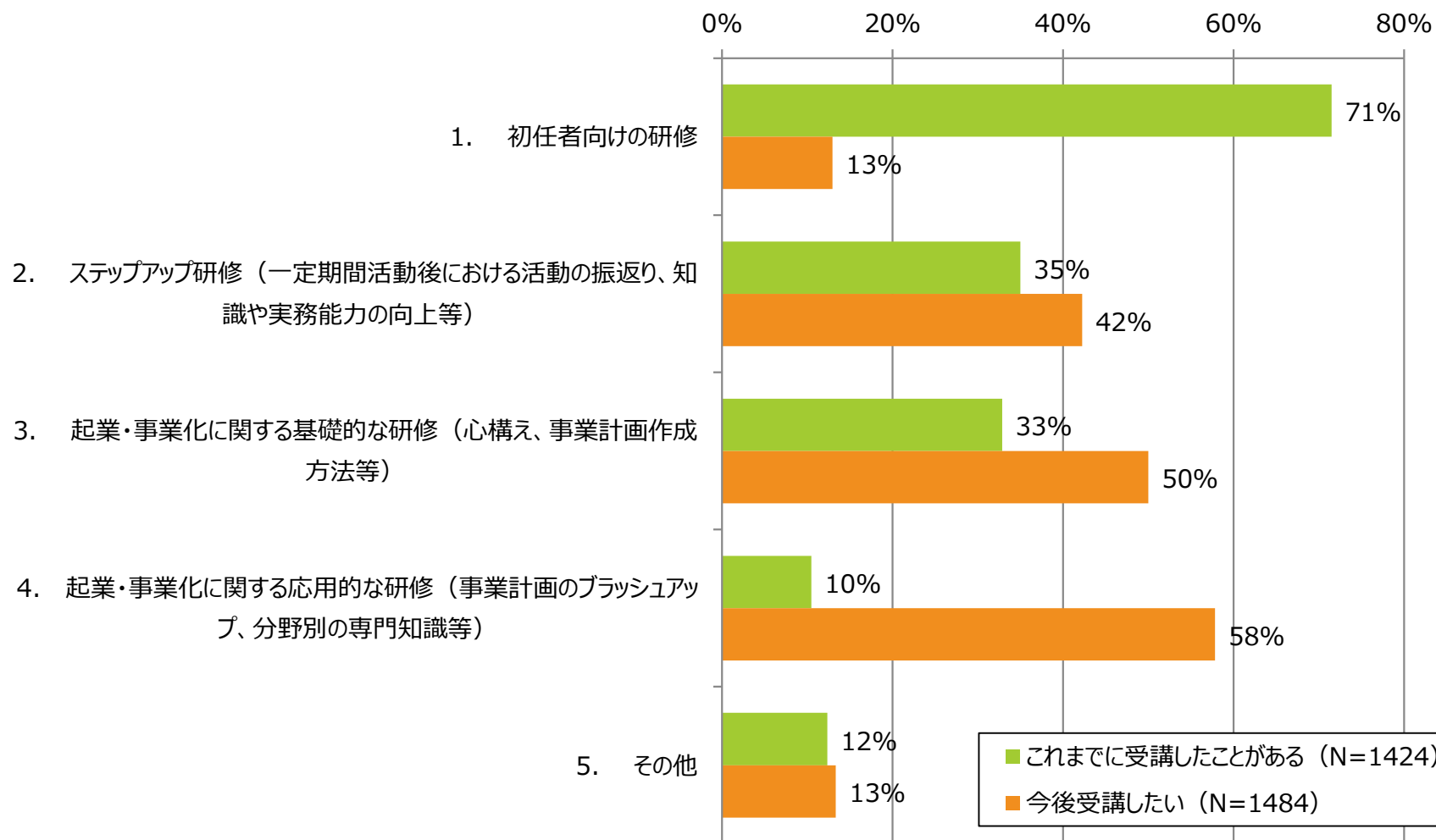


○（起業したい場合の）相談者（N=665）



12. 研修のニーズ

•半数以上が、起業・事業化に関する研修の受講を希望している



募集・採用

◆地域おこし協力隊になる理由

- 「地域の役に立ちたい」、「自分の経験を活かしたい」、「面白い活動をしたい」といった理由が多いが、最近では「定住の準備」「地域とのつながりがあった」といった理由も増えている

◆応募のプロセス

- 地域の募集情報は、自治体やJOINのホームページからの入手が多いが、身近な人やフェア・イベントから入手するケースも増えている。

活動

◆活動内容

- 地域のコミュニティ支援、生活支援といった地域内のサポート的活動から、情報発信、移住交流など地域外との関係づくり等の活動が多い
- 農林漁業は、専門的に取り組む割合が高い
- 着任前と比べて、地域との付き合い等の時間が増加
- 約4割が副業・兼業を行っており、その理由としては任期後に向けたステップが7割、生活費の補てんが6割

◆活動の評価（期待と満足）

- 自己実現、面白さは、期待ほどの満足は得られていない
- 一方、生活環境、注目度は、期待以上の満足を得ている

◆活動の課題

- 技術・知識の習得や活動の目的・内容の明確化を課題として挙げる隊員が多い

終了・定住

◆定住に向けた課題と意向

- 定住に向けては、技術・知識の取得、任期後の活動目的・内容の具体化及び資金の確保を課題として挙げる隊員が多い
- 定住意向を持つ隊員が約6割で、その割合は上昇している。
- 起業意向を持っている隊員の8割が、資金面の不安を有している